

日々様々なことを学んでいます

大久保 帆乃香

◎渡航先：オレゴン州ポートランド

◎派遣校：Grant High School

私は、オレゴン州ポートランドの公立グラント高校でインターンをしています。こちらに来て早いのもので、もう半年が経過しました。大変なこともありますが、毎日とても充実した生活を送っています。

まず、私のインターンとしての生活について、少し書きたいと思います。

グラント高校のインターンは私を含めて2人という、リッチモンド小学校やマウントテーバー中学校に比べて少ない人数です。私は9年生（日本で言う高校1年生）から12年生（日本で言う高校3年生）までを教えています。9年生と10年生合同のクラスと、11年生12年生合同のクラスがあり、それぞれレギュラークラスとアドバンスクラスに分かれています。それぞれのクラスにテーマがあり、今、低学年は「日本の歴史と文化」、高学年は「日本の社会」というテーマで授業を行っています。文法や漢字などを教えるだけではなく、テーマに沿った読み物やビデオなどを見たり、ディスカッションをしたりととても高度なことをしています。授業中は約9割が日本語です。

また、日本語イマージョンの生徒だけではなく、高校から日本語を始めた生徒たちも教えています。日本語が一切分からない生徒たちですので、時折英語を混ぜながら日本語の挨拶を教えたり、平仮名やカタカナなどを教えたりしています。イマージョンのクラスとはまた違った大変さもありますが、日本語が分からなかった生徒たちが日本語で挨拶をしてくれたりした時などは、生徒たちの成長を感じてとても嬉しくなります。高校から始めた生徒たちは本当に日本文化に興味のある生徒たちなので、日本文化についての質問が絶えません。もっと自分の文化について知っておくべきだったと、反省する日々です…。

リッチモンド小学校やマウントテーバー中学校と比べて、グラント高校で日本語を学ぶ生徒の割合はとても少ないです。高校全体は普通のアメリカの高校なので、アメリカの高校生の生活を間近で見ることができ、とても興味深いです。「さすがアメリカ！」と思うようなイベントがたくさんあり、私自身も生徒たちと一緒に楽しんでいます。

私たちインターンの仕事は、コピーや丸つけ、教材作りなどのいわゆる雑用だけではありません。生徒全員が理解し参加できる授業づくりのために、授業中についていけない生徒の手伝いをしたり、集中していない生徒を注意したり、メンターの先生の目の届かないところを私たちインターンが補います。最近ではいくつかのアクティビティを任せてもらうなど、生徒たちの前で授業する機会もたくさん頂いており、本当に毎日勉強になっています。

小学生や中学生に比べ、高校生と私たちインターンは歳が近いので、「先生」と「生徒」という関係を築くのに苦労することが多いです。しかし逆に年が近いからこそできることがあるのではないかと日々自分のできることを模索しています。

学校がない日は、ホストファミリーや友達と出かけたり、新しい友達を作り地元コミュニティに参加したり、また家やカフェでまったり過ごしたりしています。日本人の友達だけではなくもっと友達を作りたいと思っているので、これからもっとコミュニティへ参加したいと考えています。ポートランドの人たちは本当にフレンドリーで優しく、私はこの街がとても大好きです。

綺麗ごとではなく、このインターンシップを通して日々様々なことを学んでいます。授業をする上でのテクニックや日本人以外の人とのコミュニケーションの取り方、アメリカと日本の文化の、それぞれのすばらしさなど、毎日が勉強です。あと半年、もっとたくさんものを吸収して、一回りも二回りも大きくなって日本に帰りたと思います。このインターンシップに参加できてよかったと、心からそう思います。